

QYT

Q-Yacht Times
December 2020

大会報告

全日本インカレ団体戦

<1日目>

1年間の集大成であり、目標である「日本一」への戦いが幕を開けました。陸待ちをしたのちに出艇をしましたが、無風のため、1レース目の途中でN旗があがりノ

ーレースとなりました。その後、3ノットの風が吹いたためレースが再開されました。この日は両クラスとも1レースを消化しました。

国際470級では微風のため、フィニッシュウィンドウ内にフィニッシュできた艇は全体で16艇のみであり、九州大学は惜しくも3艇ともDNFという結果となっ

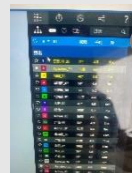
てしまいました。国際スナイブ級は、団体成績が10位という結果でした。1日目の総合成績は10位となり、日本一を目指す団体としては決して良い順位と言える結果ではありませんでした。しかし、同様の状況である大学も多くあることや、何が起ころか最後まで分からない全日本インカレにおいてネガティブな感情

になることは得策ではないと判断し、全員が気持ちを切り替えることに集中しました。反省を入念に行い、次のレースに繋げました。(川端)

<2日目>

1日目の挽回を果たすべく臨んだ大会2日目は、微風～中風のなか両クラスとも4レースを消化しました。風の振れが大きく、また潮の影響も順位に大きくかかわったと思います。この日470級第2レースでは森/石原先輩ペアが7位、第3レースでは芝先輩/矢吹ペアが7位とシングルをとるなど、手ごたえを感じる場面も多かったです。スナイブ級でも位田先輩/佐田ペアが第5レースでは

ニッシュするなど、大いに盛り上がる場面がありました。2日目の時点で470級は10位、スナイブ級は13位、総合成績11位という結果となりました。今大会では、コロナウイルス感染拡大防止のため現地に行くことができる人数が限られており、小戸と和歌山という離れた場所で戦うこととなりました。しかしオンラインミーティングや小戸サポートを通し、ひとつになって戦っているというのを改めて実感しました。(川野)



得点計算・広報本部@小戸

トラッキングシステムによるコース分析も行いました!



<3日目>

いよいよ全てが決するという緊張感の中迎えた、インカレ最終日。海上ではAP旗があがり、予定時刻より遅れての出艇となりました。徐々に風があがり、6～10knotほどのコンディションの中、470・スナイブ共に第6レースを行いました。その後、470の予告信号が最終時刻の直前で発せられ、470級のみ第7レースが行われました。現地組と小戸組、全員が息を吞んで最終レースの様子を見守りました。

最終的には、国際470級10位、国際スナイブ級14位、総合9位という結果となり、悲願の総合優勝は逃してしまいました。

思うような結果は残せませんでしたが、現地メンバー、小戸サポート共に最後まで諦めず戦い抜いた心に残る大会となりました。(濱田)



温かいご声援誠にありがとうございました



全日本 470

11月11日(水)～15日(日)に神奈川県相模湾にて全日本470級選手権大会が行われました。九州大学からは、山下龍司(新3年)/上野大一(新3年)が出場致しました。1日目は、ブロー差の大きい中での難しいレース展開となりましたが、全国の舞台で自分たちのボートスピードを確認できる絶好の機会になりました。2日目は安定しない海面のなかでBFDをとるなど厳しいレースもありましたが、その中でも上位に食い込むなど良い感触を掴む瞬間もありました。3日目は、上位で走る瞬間もありましたが、ブロー差の大きい海面であるうえに全国レベルに圧倒されるような場面も多くありました。全体を通して、高いレベルの中で大きなフリートでの考え方やコースの引き方に焦点を当てるなど、目的を持ってレースに挑むことができました。待ち時間などでは、トップセーラーにアドバイスなどを積極的に頂くことで有益な時間を過ごすことができました。(川端)

全日本スナイプ

11月12日(木)～15日(日)にかけて和歌山セーリングセンターにて全日本スナイプ級ヨット選手権大会が行われ、九州大学からは1艇が参加いたしました。3日間を通してブロー差が大きく、難しいコンディションであり、ゼネラルリコールを繰り返したりN旗があがったりと安定しないレース展開となりました。今大会は、学生だけではなく社会人の方も含めたレベルの高いレガッタであり、普段経験することのできない多くの学びを得ることができました。また、風待ちの時間を活用して社会人セーラーに積極的に質問をするなど、かなり成長が感じられた大会となったようです。

今回の大会で得た様々な知識や経験を部に還元し、部全体がよりレベルアップできるよう、情報の共有や練習の質の向上を心がけていきたいと思います。(濱田)

全日本学生ヨット個人選手権大会

11月27日(土)～28日(日)にかけて、愛知県蒲郡市豊田自動織機海陽ヨットハーバーにて、2020年度学生ヨット個人選手権大会が行われました。九州大学からは、国際470級2艇、国際スナイプ級4艇の計6艇が出場しました。



1日目は1日を通して20knotほどの風の中4レースを消化しました。場所によりブロー差がありシフティな海面でのレースとなりました。トラッキングシステムを活用し、コース分析を行うことで翌日のレースに向け反省点を挙げることができました。2日目は6knot～11knotほどの風の中2レースを消化し、本大会は終了しました。

本レガッタは全国の水域を代表してきたトップレベルの選手が集っており、また、ビッグフリートを体験することができる貴重な機会となりました。各ペアでしっかりと目標をもってレースに臨むことができました。この遠征で得た学びを小戸に持ち帰り、冬練習や春練習に向けての課題設定に活かしていきたいと思っています。(川野)

新体制始動!



「夢中」

11月頭に代交代を迎え、佐藤主将率いる新チームが始動しました。

各部署長の意気込みをご覧ください。

主将

佐藤
拓海



全日本インカレ総合優勝を目標に今年のすべてをかけるつもりで努力します。チームとして全員がヨットに夢中になれるような環境を作ることが個人としての目標です。目標達成はとても

大変だと思いますが部員一人一人と密にかかわって、力を最大限に引き出して必ずや成し遂げたいと思います。

副将

佐藤
寛朗



副将を務めるにあたって抱負を述べさせていただきます。まず、1年間安全に事故なく部活動を終えること。そのためには常に安全に気を配って活動します。そして副将として主将を支えることはもちろん、副将をサブとは思わずに前に立つ人

間として、部員1人1人に気配りし、主体的に活動します。目標である総合優勝を達成するために、部員全員がヨット部に夢中になれるような環境作りを心がけます。個人としては、後悔しないように、できること全てやりたいと思います。これから1年間よろしくお願い致します。

井手
沙緒里

マネージャーリーダー兼人事部長



九大ヨット部の強みは「人」だと思います。その、「人」の力を最大限にするために、マネージャーとしても、人事部長としても、「一人一人と誠

実に向き合う」ことを何より大切にしようと思います。また、自分がいたから勝てたんだ、と部員全員が胸を張って終われるように、どうすれば勝てるのか、どうすればチームとして強くあれるのか、最後の最後まで考え続けようと思います。ラスト1年間、後悔のないように頑張ります!

伊藤
仁

レース技術部長



日本一になるためには何が必要か?ヨットが上手くなること。ではヨットが上手くなるために何をすべきか?これを考えるのがレース技術部です。皆が「夢中」になって取り組める練習メニューやトレーニングを考えていきます。今年1年間よろしくお願ひします。

山之内 主務部長



美彩

濱田 彩花

ヨット部を応援して下さる関係者の方々と現役部員の橋渡し役となるのが主務部の役割です。九州大学ヨット部が活動する上で欠かせない外部との交渉や、各行事の運営など、滞りなく行われるよう仕事を全うしていきます。私は2年生から兼任という形で主務部に関わってきたのですが、ヨット部の窓口として着実に仕事をこなしつつ、柔軟に対応していけるよう頑張ります。1年間よろしくお願致します！

広報部長



園田 レナ

私たち広報部は、休みの日も年末年始も休まず日々ブログを更新しています。この毎日更新は毎年当たり前のようになっています。しかしこれは、佑里と七海と3人で力を合わせなければ成し得ないことです。ブログや写真を通じて多くの方々に九大ヨット部を知ってもらおうとともに、多くの方から日本一応援されるチームをつくっていきたくと思います。1年間、よろしくお願致します。

練習安全部長



の管理等をしっかり行って行きたいと思っています！

九大ヨット部が活動する上で最も大切なことは「安全」だと考えています。そのため、今年1年は新3年マネージャーの遥と共に部員が当たり前前に安全に日々練習できるよう、レスキュー艇

学連部長



また九州学連委員長は九州水域の代表であるという自覚を持ち、全国と九州との窓口となるよう早くミスなく正確に役目を果たせるよう心掛けます。1年間宜しくお願いします。

昨年に引き続き学連部長を務めることになりました。昨年の経験を生かしながら、各大学の学連委員の学生・役員の方と連携して、1年間滞りなく進められるよう頑張ります！

会計部長



こうして集まった限りある予算の使い道が正しいかを見極め、私たちの目指す日本一のために本当に必要かを考えて責任をもって運用していきたいと思っています！

ヨット部の年間予算は学生が扱うにはかなり高額になっており、この予算を管理するのが会計部です。他にも遠征費や食費の管理、部全体でのバイトの統括など仕事は多岐に渡ります。

遠征計画部長



美来

遠征計画部は、新人戦や七大戦、インカレなど主に部員全員で行く遠征のスケジューリングを行なっています。安全面や衛生面に注意し、規律を持った無駄のない遠征になることを常に心

がけています。今年もコロナウイルスの影響でイレギュラーな動きになることが予想されますが、選手が競技に集中でき、サポートメンバーも1人1人がやりがいを持って活動できる環境作りができるよう、この1年頑張ります。

西 選手管理部長



真優子

私はこの1年、選手1人1人に数値やデータで情報を与え続ける、ということを目指に取り組みたいと思います。レース結果、風、海面、体力、体重、ランニング、などなど、デ

ータとして選手に還元できるものは多くあります。その中から選手が自分に必要な情報を取捨選択し、選手自身が考え分析し、活用できるようなサポートをしていきたいです。また、例年の課題としてあるフィジカル面、メンタル面の両面から考え、より強化するための方法を常に考え続けます。部員一丸となって、一緒に頑張らしましょう！

この1年間、ご声援ならびにご指導くださったすべての皆様に心から感謝申し上げます。

我々九州大学ヨット部は、部員全員が

「夢中に」なり試行錯誤しながらも常に邁進して

参ります。ご迷惑をお掛けするかと思えます

が、今後とも九州大学ヨット部を温かく見守って

いただけたら幸いです。



新歓報告

現在ヨット部に在籍する6人の新2年生に加え、新たに佐藤仲善（さとうちゅうや）（工学部物質科学工学科）がヨット部の一員となりました。今後の成長を温かく見守っていただければ幸いです。

今後の予定

○～12月20日 冬練習

○12月21日～2月14日 オフ期間

○12月18日 安全講習会

冬練習も残りわずかとなりますが、一日一日の練習に目標をもって参加し、1つでも成長できるよう励んでまいります。また、安全面にも十分注意して活動致します。

今月もご覧いただき

ありがとうございました。

来月もぜひご覧ください。